

赤じゅうつたんのの上を胸張って

渡辺謙から凱旋將軍の笑み

ついにベールを脱いだ「硫黄島からの手紙」 日本武道館で6,500人のワールドプレミア

12月9日、ロードショー公開されるクリント・イーストウッド監督、渡辺謙主演のワーナー・ブラザーズ映画「硫黄島からの手紙」のワールドプレミアが去る15日、日本武道館で盛大に行われた。赤絨毯の上を、イーストウッド監督に率いられて登場した渡辺謙以下、二宮和也、伊原剛志、加瀬亮ら日本人俳優たちはハリウッドの大作に出演して、まるで「凱旋將軍」。



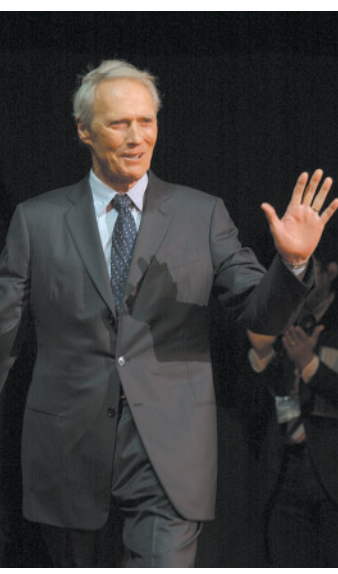
舞台あいさつする出演者ら(左から二宮和也、渡辺謙、クリント・イーストウッド、伊原剛志、加瀬亮)



ファンにサインする渡辺謙



宇崎竜童・阿木耀子夫妻(上)



クリント・イーストウッド監督(右)

宇崎竜童、阿木耀子、山田優らスターも続々

北の丸から日本武道館正面入り口までの通路にはレッドカーペットが敷き詰められ、1000人を超す報道陣は、午後5時45分からの入場を待った。ところが、一行が到着したのは30分遅れの6時15分。沿道を埋めたファンが、歓声をあげる中、イーストウッド監督や渡辺謙ら出演者はテレビのレポーターや新聞記者たちのインタビューに応じながらゆっくり歩を進める。渡辺謙は、ファンが差し出す色紙に快くサイン。気難しいといわれるイーストウッド監督も愛想よくインタビューに応えサインのファンサービスも。世界で初めて上映される自信

作を見に来た日本のファンに敬意を表すか。あるいはアメリカに次ぐ世界2位のマーケットである日本の重要性に感謝してか。いずれにしても、サービス精神は旺盛だ。

続いて、このワールドプレミアに招かれた著名人たちの入場。着飾ったスターたちが続々と登場して、アカデミー賞のレッドカーペットをほうふつさせる華やかさ。

出席した著名人は別記の通りだが、宇崎竜童は夫人の阿木耀子をエスコート。格闘家の吉田秀彦のいかついスーツ姿はひとさわ目立ったが、あとは人気モデル、歌手、俳優のオンパレード。

午後7時からは、イーストウッド監督ほか製作のロバート・ローレンツ、脚本のアイリス・ヤマシタの米側スタッフ。それに日本の渡辺謙らがステージに並んでの舞台挨拶。

6500人を呑み込んだ武道館。熱気が立ち込めている。

まず、渡辺謙が「日本人が忘れてかけていた61年前の真実をアメリカ人スタッフが素晴らしい理解力で映画に撮り上げてくれた。先輩たちが受けた硫黄島でのつらい苦しみもここにいらっしゃる皆さんに少しでもわかっていただければとあいつつ。

若し二宮和也はこの映画の真実をひとつだけ。ここに描かれていることは真実であった」ということです。自分はこの映画に出演してそのことがわかりましたと神妙な表情で語った。

イーストウッド監督は「満足いく作品を作った。日本の出演者たちは本当に素晴らしい。硫黄島で戦い戻らない若者たち。この映画を捧げたい」と語り、拍手を受けた。

イーストウッド監督は、テレビシリーズ「ロー・ライダー」のPRのため、1962年に初来日。2005年4月に43年ぶりに来日し、ロケハンのため硫黄島視察や、撮影協力要請のために都庁を訪問。今年4月に硫黄島2部作のPRで来日記者会見をし、この日のワールドプレミア出席となった。

主な出席者

- 宇崎竜童(歌手)・蛭原友里(モデル)・俳優)・押切もえ(モデル)・久保田利伸(歌手)・小林信彦(小説家)・坂口憲二(俳優)・瀬戸朝香(俳優)・滝沢沙織(タレント)・水井大(俳優)・深浦加奈子(俳優)・堀余貴美子(俳優)

- 内葉子(モデル)・松山ケンイチ(俳優)・三田寛子(俳優)・袴田吉彦(俳優)・山田優(モデル)・俳優)・矢沢心(俳優)・八木智哉(日本ハムファイターズ)・吉田秀彦(格闘家)・余貴美子(俳優)